

FIG. 1

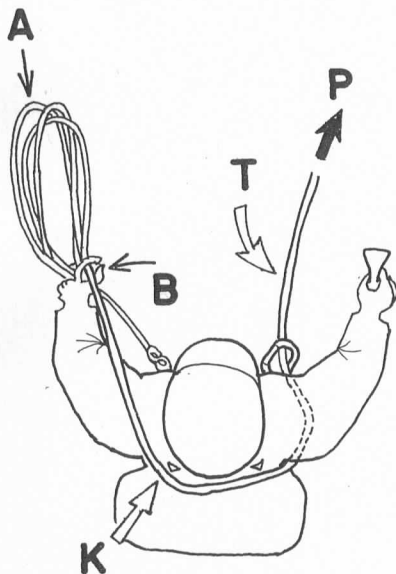
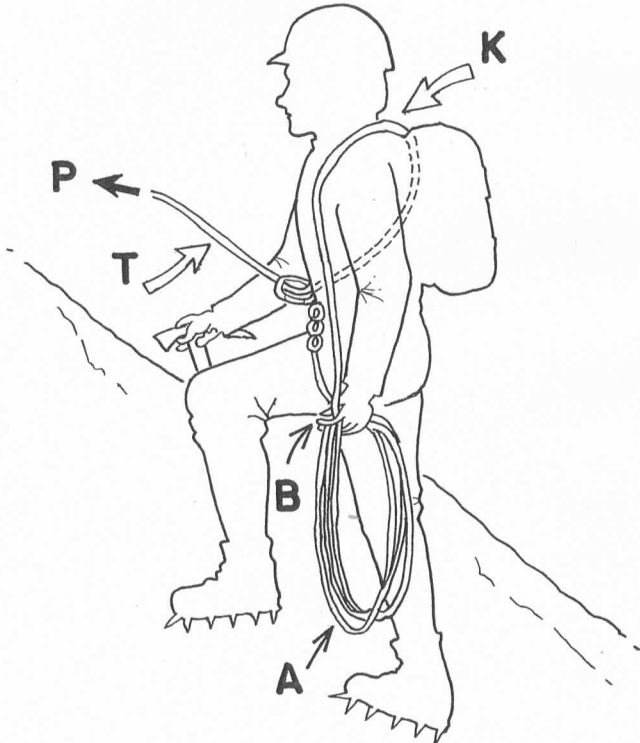
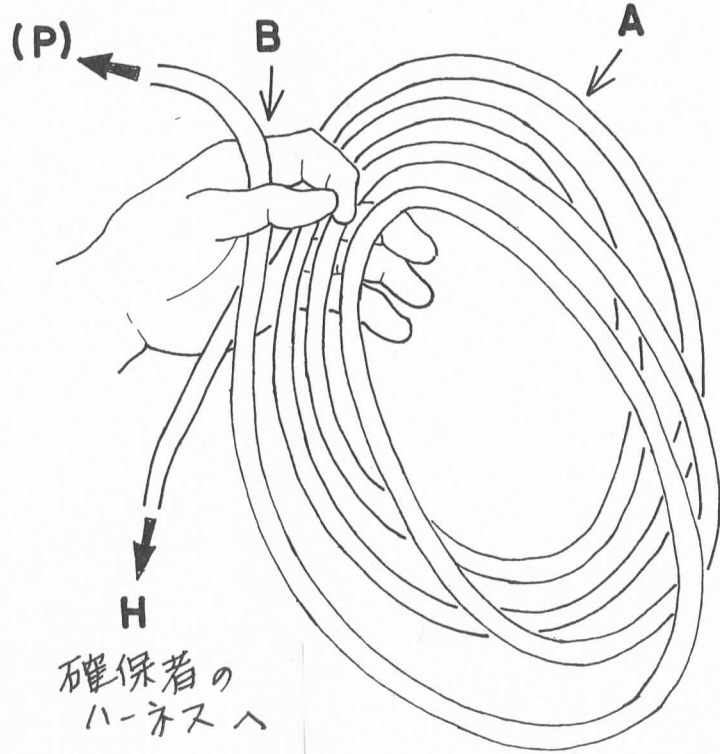


FIG. 2



肩、カラビナ(ハーネス)を  
 介して、トップ(パートナー)へ

FIG. 3



確保者の  
 ハーネスへ

FIG. 4

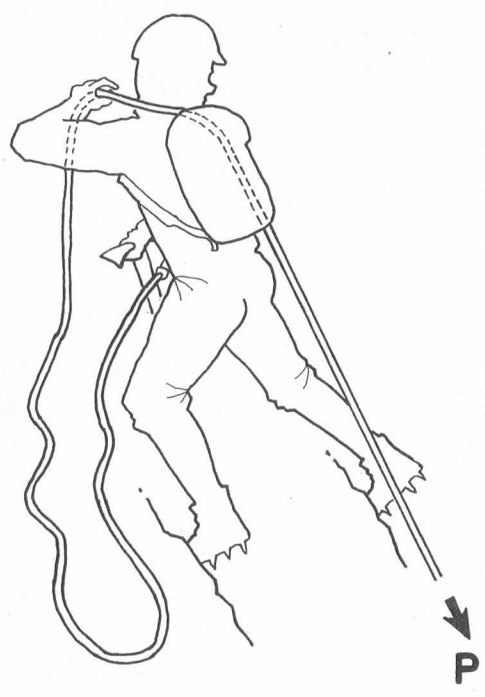


FIG. 6

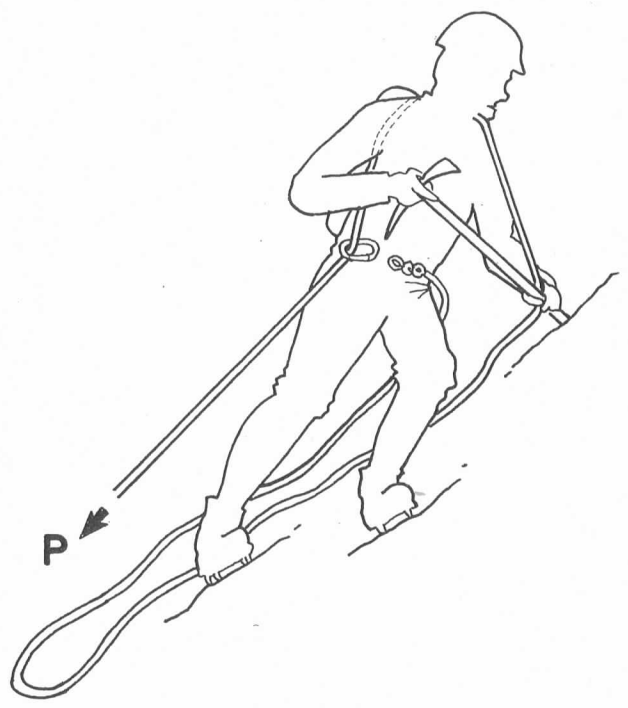


FIG. 5

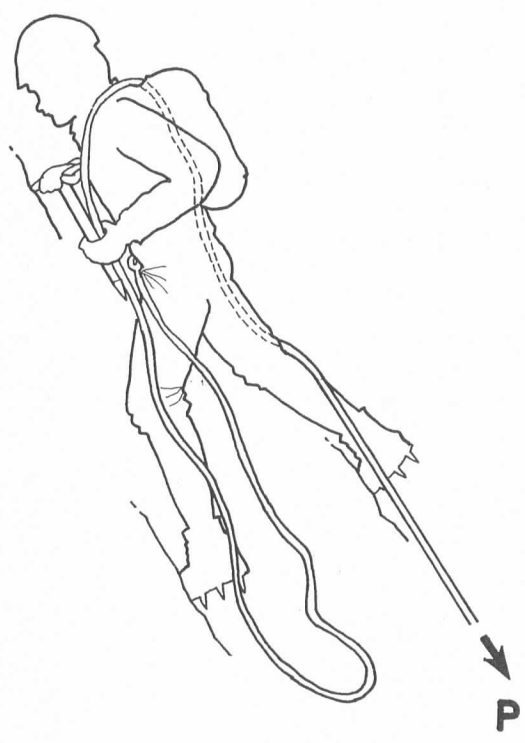


FIG. 7

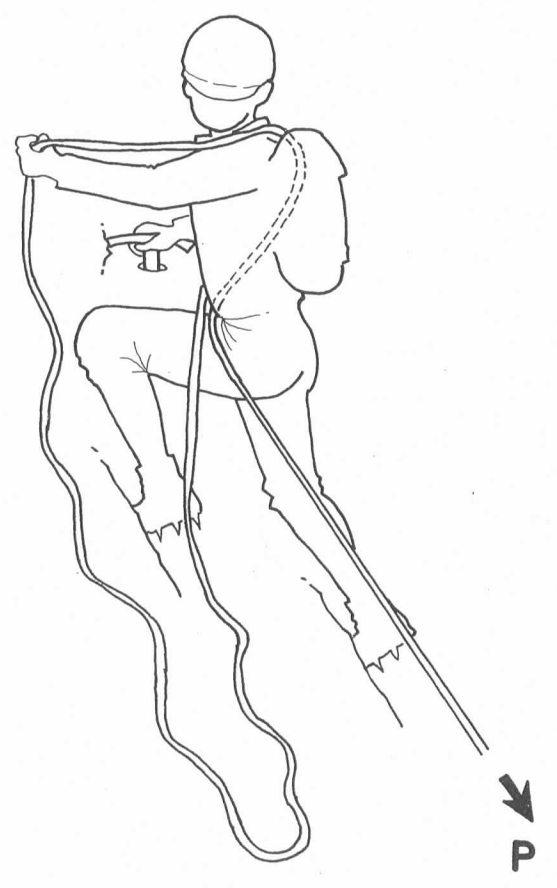
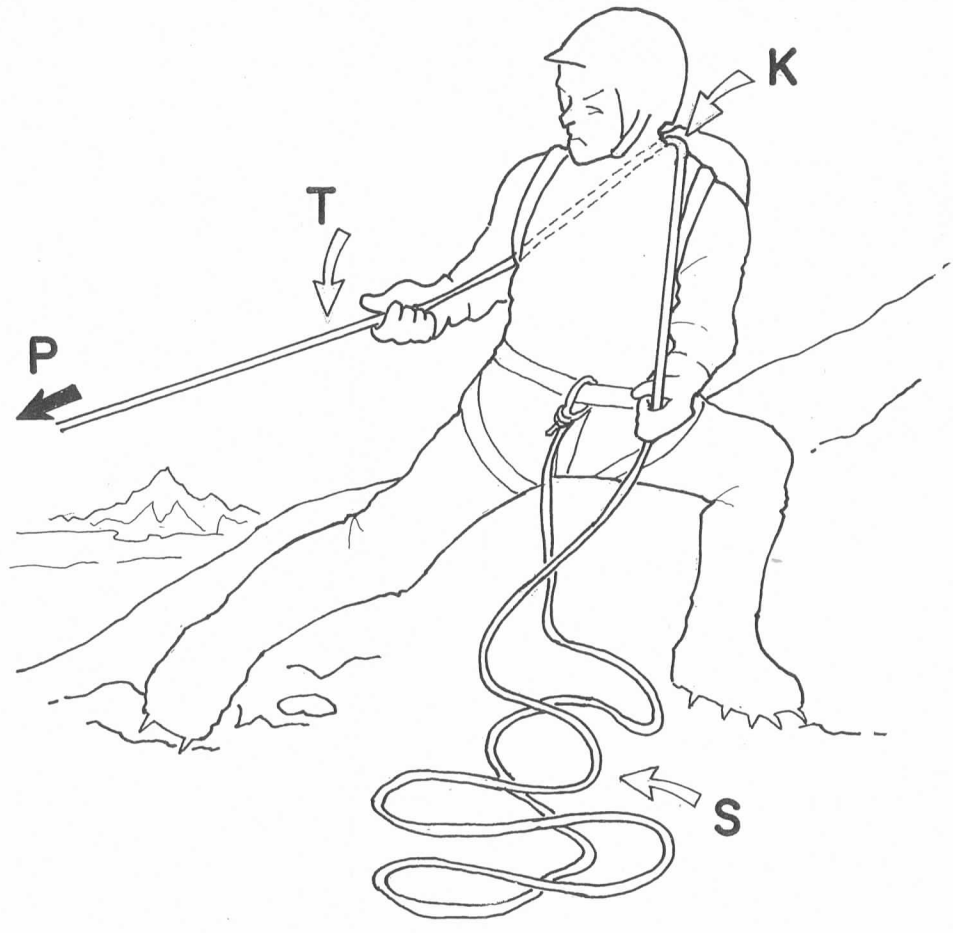


FIG. 8



# コンティ=アスクライミング イラストの説明

09-10/17用

同時登攀(コンティ=アスクライミング)

システムの解説

## (1) OMシステム

登下降時の基本体勢(姿勢)

FIG. 1 → 上から見た図

FIG. 2 → 側面から見た図

FIG. 3 → 行動力時のルーフの持ち方

FIG. 4 → 初期制動(基本型)

FIG. 5 → 滑落停止型(基本型動作)

FIG. 6 → 横突型

FIG. 7 → 初期制動(292)

## (2) 肩から制動確保

FIG. 8 → 肩から体勢での確保方法

### 記号説明

A: 確保用口-7°のルーフ

B: 確保用口-7°をよりかける手

P: ハートナー(登攀者)・トップへ

(P): 肩、ハーネスのカラビナを介してハートナー(登攀者)へ

H: 確保者のハーネスへ

T: 登攀者側口-7°( )

K: 確保者側口-7°(スハア口-7°)

S: 確保用口-7°(制動用)

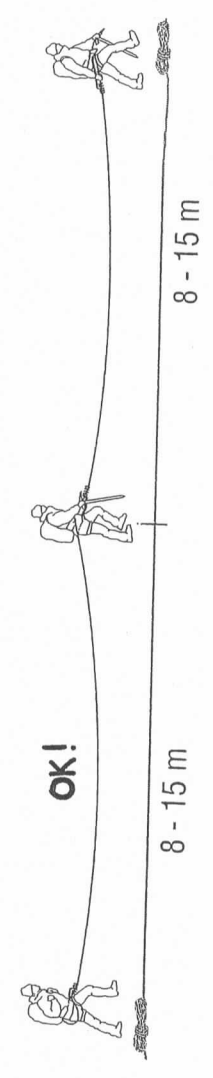
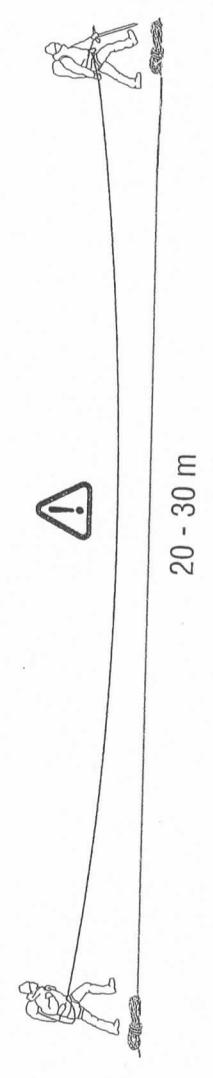
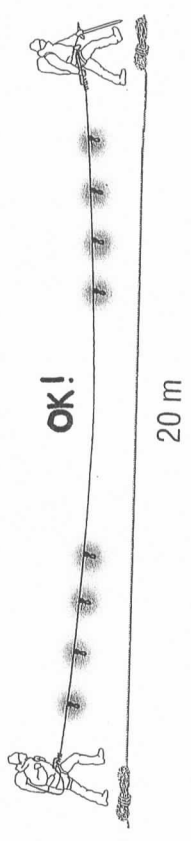
スキー  
PETZL のマゴック: 08-6/7  
番号 1=!!

No. 1/6

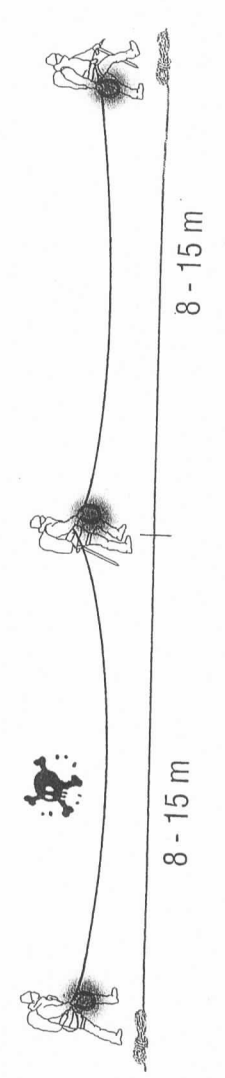
ヨン

- A. アンザイレン
- B. クレバスレスキュー
- C. ホーリングシステム

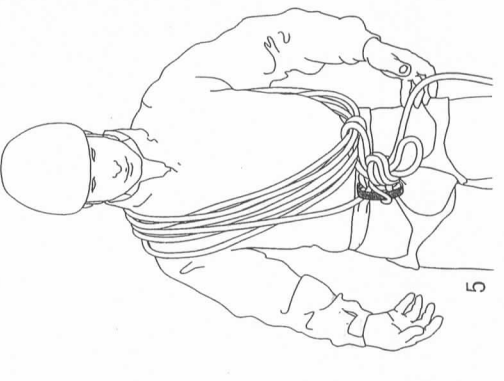
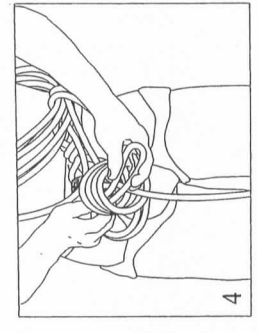
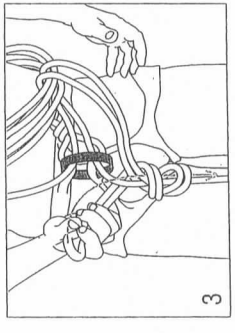
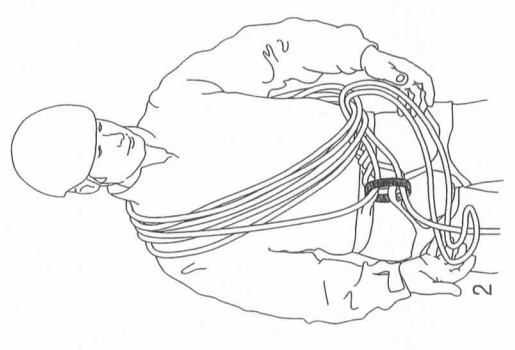
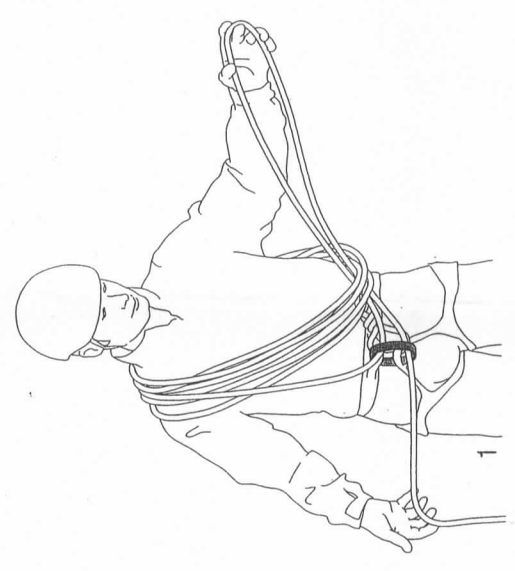
A. アンザイレン  
クライマー間の距離



注意: ロープをまとめて手に持つことは危険です

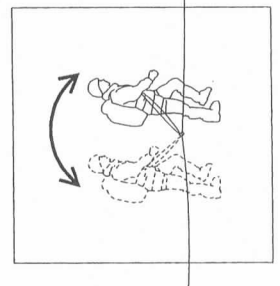
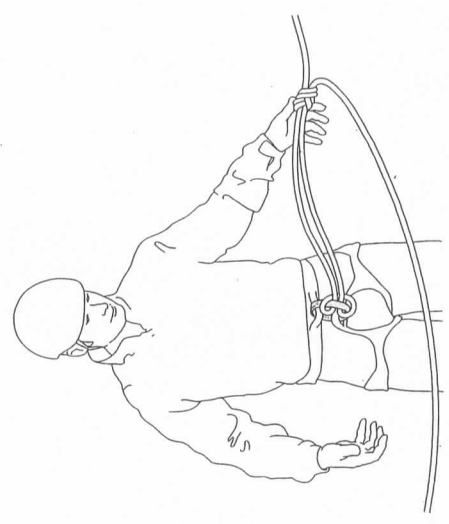
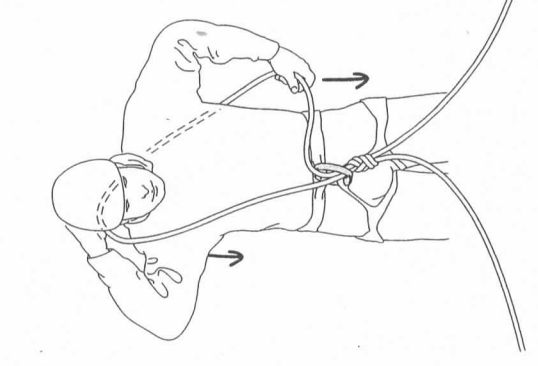
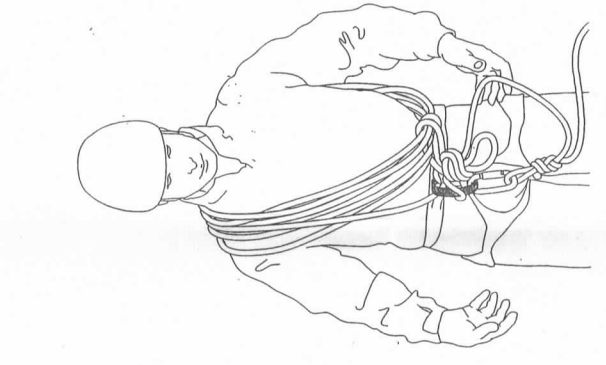


ショートロープ技術



荷重がハーネスに加わっていても肩に巻いたロープを  
解除できる方法: カウステイルを使用

3人1組でのロープの結び方: 中間のクライマーへの連結方法



こちらは掲載した内容はすべてを網羅するものではありません。他の項やユーザーインストラクション、テクニカルマニュアルも参照ください。技術的なトレーニングも必ず行ってください。



テクニカルインフォメーション

B. クレバレスキュー

墜落の停止:

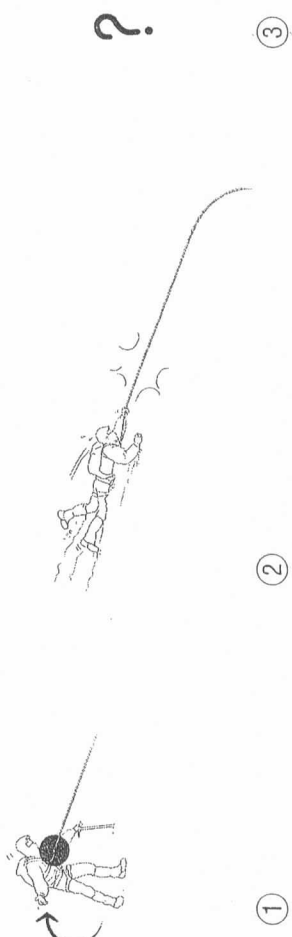
- 腹部へのロープの連結とタイトロープ技術



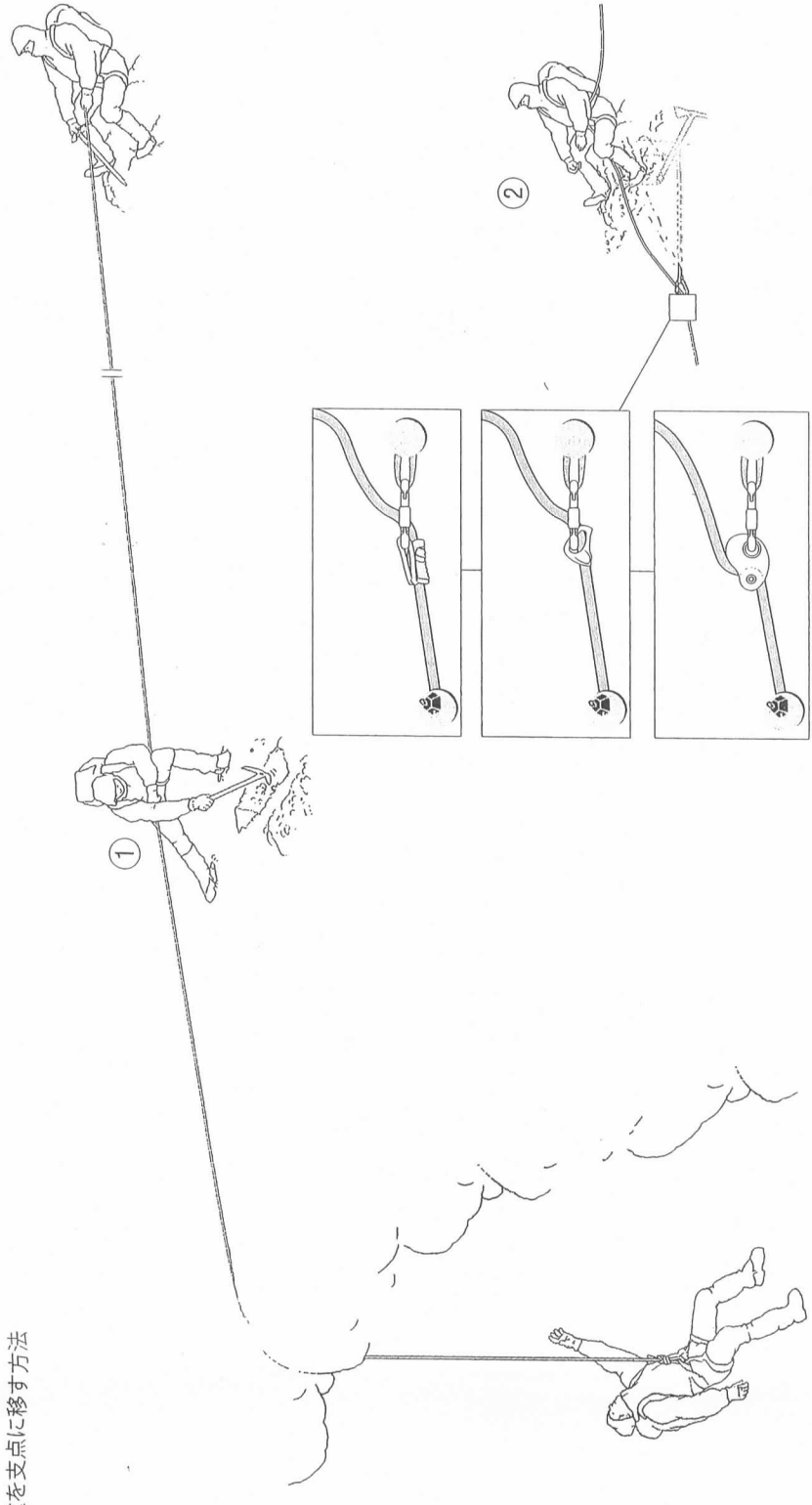
- ロープをループにして手に持っている場合の危険



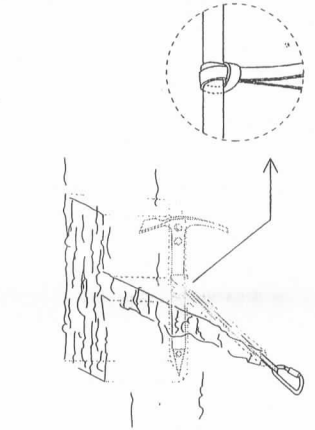
- 胸の位置にロープを連結している場合の危険



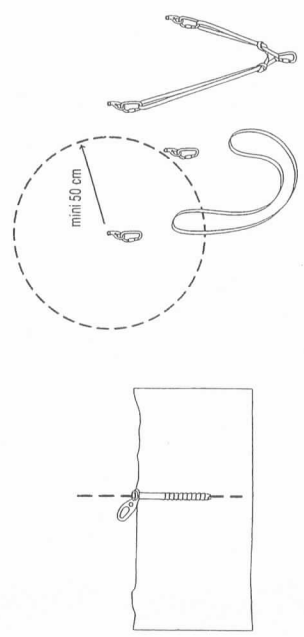
荷重を支点に移す方法



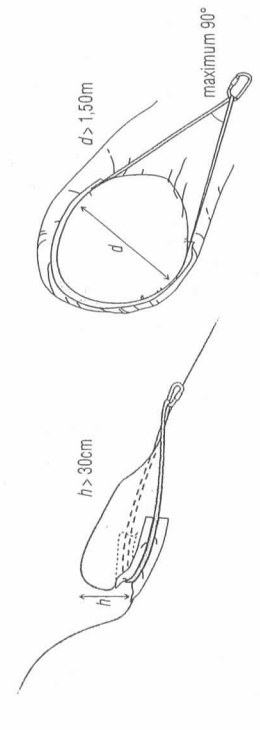
支点の例  
雪の場合



氷の場合



硬い雪の場合



こちらは掲載した内容はすべてを網羅するものではありません。他の項やユーザーガイド、ストラクチャー、テクニカルマニュアルも参照ください。技術的なトレーニングも必ず行ってください。

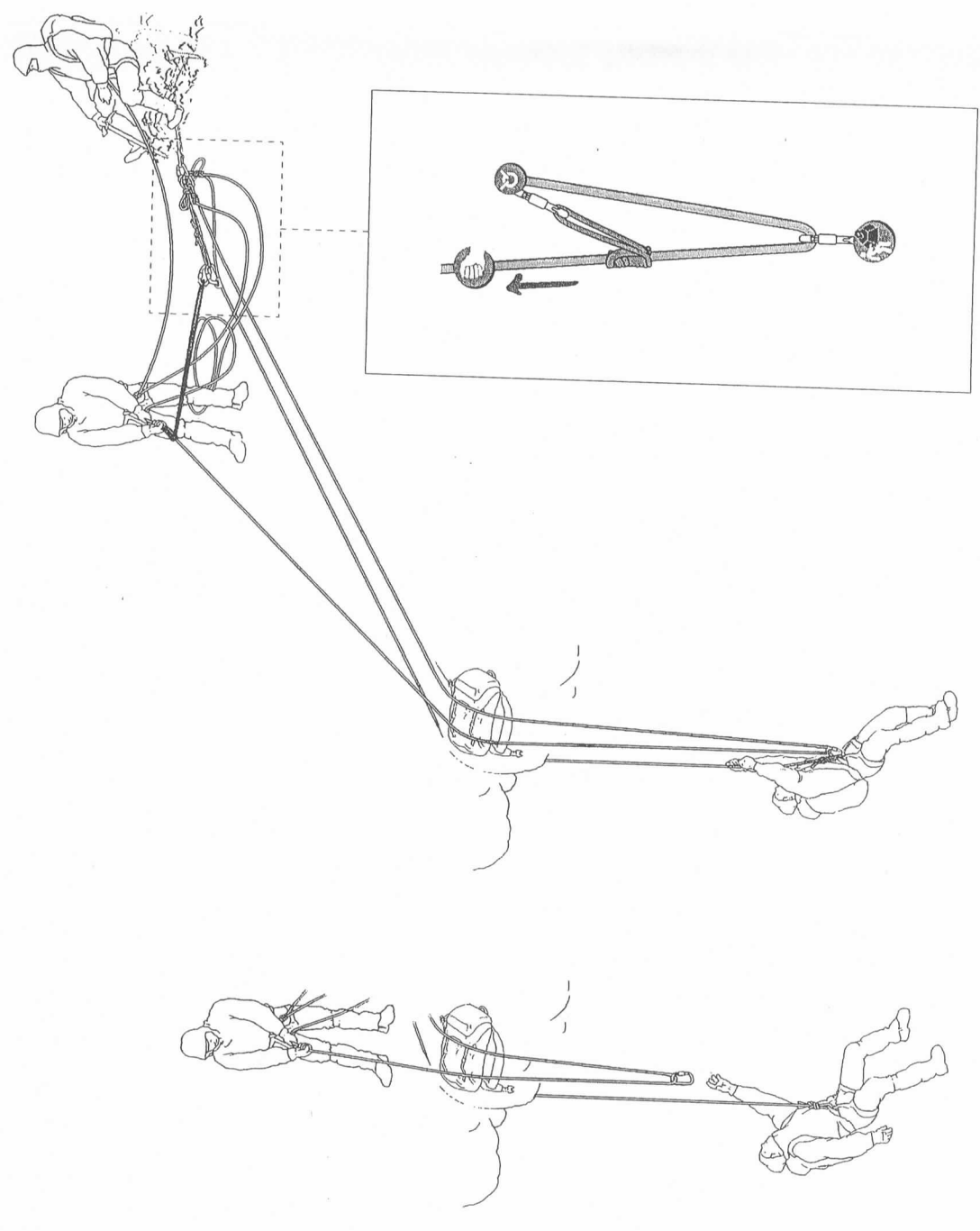
# スノートラベル・マウテニアリングスキー

## テクニカルインフォメーション

### C. ホーリングシステム

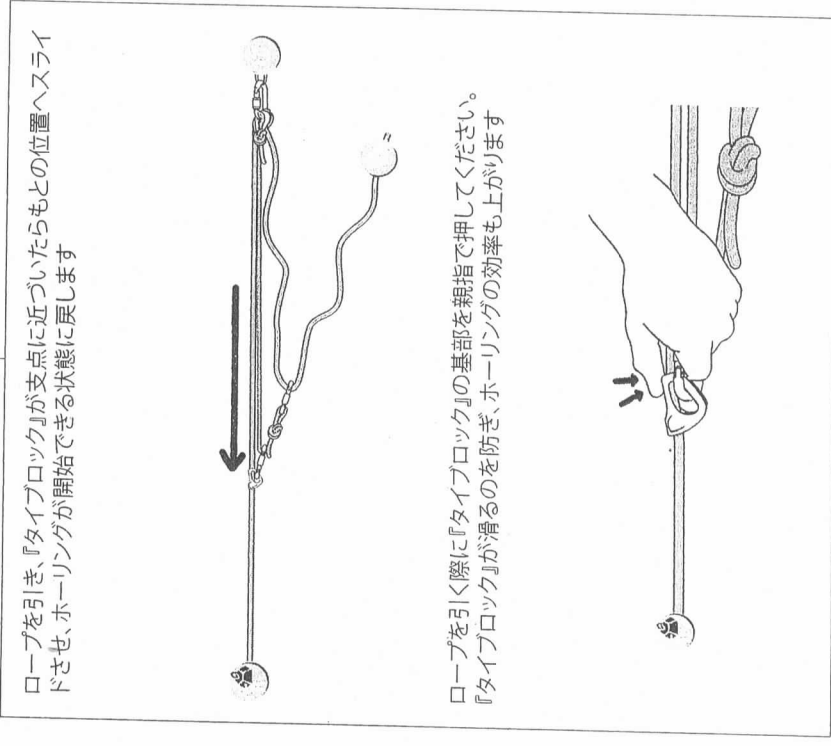
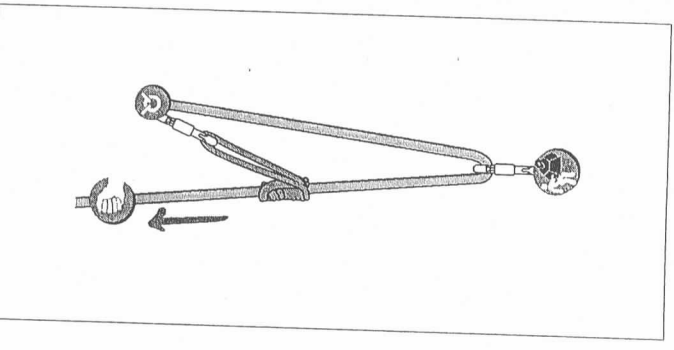
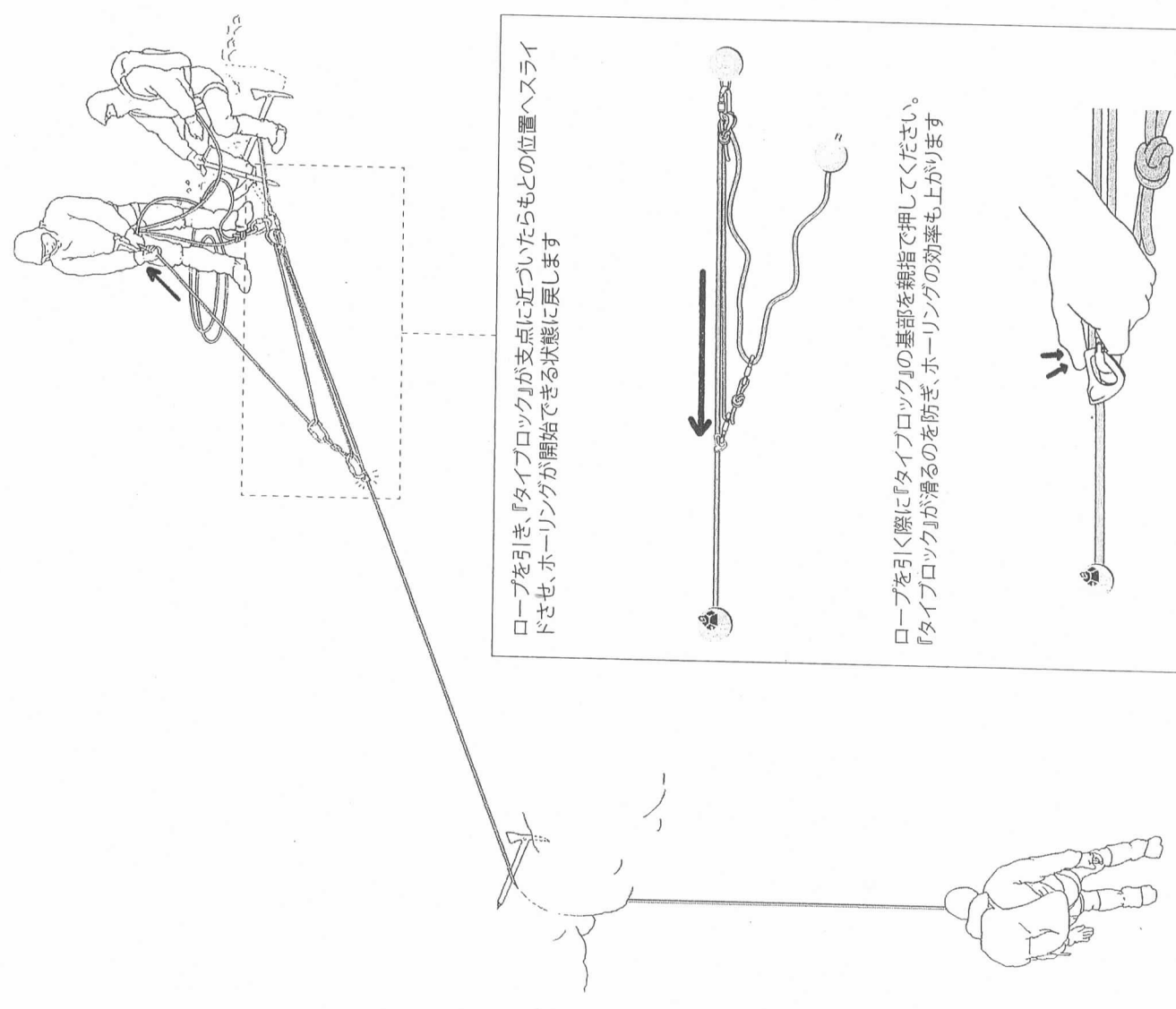
#### シンブルプリーシステム

シンブルプリーシステムは非常に効率的なシステムで、要救助者が動きのとれる場合に使用できます。クレバスのエッジにロープが食い込んでしまった場合に有効な手段となります。ロープの逆流れを防止する器具等を引き上げる側のロープにセットする必要があります。このシステムは十分な長さのロープを必要としますが、器具は最小限に抑えることができます。



#### ダブルマリナーシステム

ダブルマリナーシステムは、要救助者の意識がない場合やロープの長さが充分でない場合に、シンブルプリーシステムやZリグシステムの代わりに使用します



ロープを引き、『タイプロック』が支点に近づいたらもとの位置へスライドさせ、ホーリングを開始できる状態に戻します

ロープを引く際に『タイプロック』の基部を親指で押してください。『タイプロック』が滑るのを防ぎ、ホーリングの効率も上がります